

平戸の聖地と集落 春日集落とキリスト教

この小高い山は丸尾山です。

かつて、ここにはキリシタンの死者が埋葬され、
墓標として十字架が立てられました。

今は石祠が立てられており、
ひっそりと人々の生活を見守っています。

春日は長崎県平戸の西岸にある集落です。
平戸では、かくれキリシタンの信仰が継承されました。

春日集落とキリスト教の歴史は、約 460 年前にさかのぼります。

春日集落は日本において最初にキリスト教が布教された地域のひとつです。
春日では住民がキリスト教に一斉改宗しました。

しかし、後にキリスト教は禁止されました。

集落の人々は、表向きには仏教や神道を受け入れつつ、
密かにキリシタンの信仰を継承してきました。

禁教が解かれた後も
人々はそれまでの信仰を継続しました。

春日の住民はかくれキリシタンとして信仰を代々継承しました。

現在でも、キリスト教に由来する信仰具などを
ご神体として祀っている家があります。

それらの信仰具は納戸や神棚に置かれています。

古くから春日集落の人々は、
山や川など自然の中の物を信仰してきました。

安満岳という平戸で最も高い山もそのひとつです。

うっそうとした森の石道を歩くと、

石の祠が姿を現します。

この祠は、地元のかくれキリシタン信者が唱える「オラシヨ」の中にも現れ、
「安満岳の奥の院様」と呼ばれています。

春日の沖合約 2 キロの場所にある
中江ノ島も春日の聖地のひとつです。

キリスト教が禁じられた時代、多くのキリシタンがここで処刑されました。
かくれキリシタンはこの島の聖水を汲みました。

今日の春日集落には、キリスト教の教会堂はありません。

禁教時代、春日の人々は
中江ノ島やキリシタンの信仰具を祀り信仰の儀式を行いました。

また、安満岳や川の神を信仰し、
神社やお寺で儀式を行いました。

現在、春日集落ではかくれキリシタンの組織的な信仰は消滅しています。

しかし、納戸神や信仰の場所は
今でも大切に守られています。

キリスト教と並行して信仰された
安満岳および安満岳の神社と碑が残されています。

かつてこの景色全体に人々の祈りが息づいていました。

信仰の跡が残されていることは、
長い年月、この場所で暮らした人々の心が生み出した一種の奇跡といえます。